

フローアップクリート



— 全国どこでも高い流動性と省 CO2 を現場で実現 —

概要

フローアップクリートは、スランプで管理されるコンクリートに、現場において増粘成分を含む流動化剤を添加することで流動性を著しく高めた高性能な流動化コンクリートです。セメント量を増大することなく、高い流動性と材料分離抵抗性の付与が可能で、スランプフロー50～60 cmの高流動コンクリートが製造できます。スランプもののコンクリートでは充填の確保が困難となる部材（例えばCFT造、SRC造、免震装置の基礎など）へ適用することで、充填性が向上し、より高品質な躯体を構築できます。



ベースコンクリート
(スランプ 18cm)



高性能な流動化剤を添加



高流動コンクリート
(スランプフロー55cm)

特長・効果

1. 全国どこでも供給できます

- 特別な装置・設備を用いることなく、現場においてアジテータトラック内の普通コンクリートに、増粘成分を有する流動化剤を添加することで、スランプフロー50～60cmの流動性の高いコンクリートを供給します。
- JIS A 5308 に適合するベースコンクリートに、荷卸し後に JIS A 6204 に適合する流動化剤を添加するため、大臣認定は不要です。
- 従来のコンクリートと同様にポンプ圧送が可能で、高強度コンクリートや高流動コンクリートを出荷できない地域や運搬距離の長い現場への供給が可能となります。

2. 高い流動性と省 CO2 を実現します

- 従来の流動化剤よりも高い流動性を付与するとともに、増粘成分により材料分離抵抗性を高めます。流動性の低下が小さくなっています。
- 高強度コンクリートを用いる場合に比べ、水和熱による温度ひび割れのリスクを低減し、CO2 排出量も5～20%低減できます。コストは同等あるいは条件によっては10%程度低減できます。

3. 幅広い適用用途があります

- CFT造の他、免震装置の基礎など締固めが困難な箇所へ幅広く適用できます。

実績・適用例

- 某病院増改築工事（CFT、2013年3月落とし込み、2013年6～7月圧入）
- 某工場新築工事（免震基礎（2013年7月）、技研再整備計画 0L2 新築工事（マスコン、2013年7月）
- 某会館建設工事（CFT、2013年11月）、某社屋建設工事（CFT、2014年9月）
- 某トンネル工事（二次覆工、2014年9月）、某病院新築工事（免震基礎、2014年10月）
- 某鉄道立体交差工事（壁、2015年3月）、某庁舎耐震改修工事（免震基礎、2015年5月）
- 某事業所施設工事（耐震改修、2015年12月）、某新築工事（場所打ち杭、2016年予定）



荷卸し（スランプ 18cm）



流動化（スランプフロー60cm）



圧入施工状況



カメラによる充填状況

某病院増改築工事における CFT 圧入施工状況

主な用途

高強度コンクリートを供給できない地区において流動性の高いコンクリートの供給を可能とします。
CFT造の他、免震装置の基礎など締固めが困難な箇所へ幅広く適用できます。
締固めが必要な個所では、作業を軽減できるため生産性・施工品質の向上につながります。

産業財産権

- 特許出願中
- 商標登録第 5676629 号「フローアップクリート」

この件に関するお問い合わせ先